

天草西海域におけるヒラメの資源量調査

- 建網漁業操業海域における試験操業調査結果 -

資源研究部 大塚 徹

目 的

本県牛深市沖の天草西海域で操業される固定式刺し網漁業（建網漁業）でのヒラメ漁獲量は、多い時で本県ヒラメ漁獲量の半数近くを占め、同海域は本県において重要なヒラメ漁場である。

しかし、ヒラメの漁獲量は平成9年以降減少を続けている。当水産研究センターでは、建網漁業操業区域内及び同区域内において特に産卵親魚の回遊が多いとされる区域（図1のNo.2、No.3区（太線内）以下区域Aと表記）のヒラメ資源状況等を把握するため、試験操業調査を行ったので、その結果について報告する。

なお、本試験操業調査は、牛深市漁業協同組合及び同組合所属の漁業者が主体となり、当水産研究センター、天草地域振興局水産課及び(財)熊本県栽培漁業協会が調査の指導、協力を行った。

方 法

1. 調査期間

平成16年1月から4月まで

2. 試験操業調査海域

天草西海域建網漁業操業海域（図1）

3. 調査項目

- (1) 伝票調査（日別銘柄別漁獲量、平均単価等調査）
- (2) 操業状況調査（操業日誌による操業海域の把握）
- (3) 市場調査（全長測定、放流魚判別等月2回実施）
- (4) 生態調査（精密測定によるヒラメ生態等の把握）

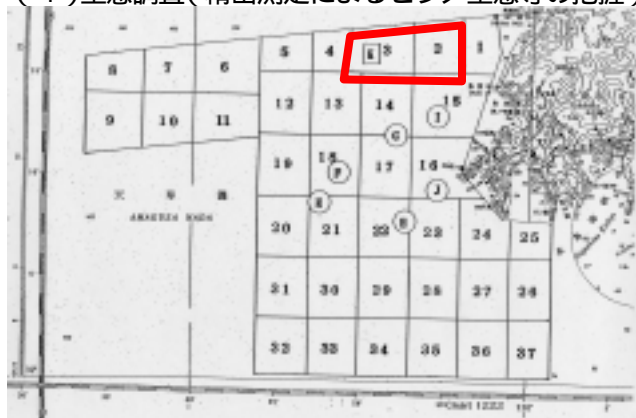


図1 建網漁業操業海域図
結 果

1. 平成15年度の建網漁業による漁獲量は42.9t（対

前年比74.2%）漁獲金額は83百万円（対前年比77.0%）と共に減少した。平成15年度の漁獲量は、過去11年間で最低の値を記録した。（図2）

- 2. 操業状況調査の結果、操業は、3月前半までは産卵親魚の回遊が多いとされる区域A（図1のNo.2、No.3区）及びその周辺で主に操業が行われ、3月後半は南部海域に操業が分散する傾向が見られた。これは区域Aでの漁獲が減少した為、新たな魚群を求め移動したためと考えられた。
- 3. 市場調査の結果、漁獲されるヒラメは、全長400～500mmの2～3歳魚が中心であった。また全長400mm以下の0～1歳魚は漁獲されなかった。更に市場調査における平均全長は月を経る毎に大きくなった。
- 4. 生態調査の結果、区域Aで漁獲されたヒラメの性比は、1,2月では雄の割合が高かったが、3月以降雌の割合が高くなったことから、雌雄で回遊時期に差があると推察された。また区域Aで漁獲されたヒラメの成熟度は、雄・雌共に2月前半から3月前半に高いことから、同時期が本海域における産卵盛期と考えられた。

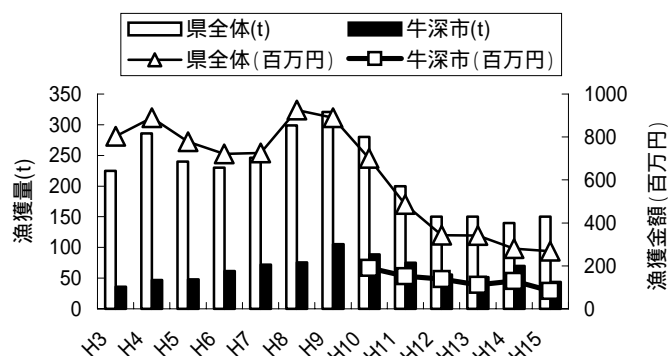


図2 牛深市漁協及び県内のヒラメ漁獲量と漁獲金額
今後の課題

今回の調査で、区域Aに多くの産卵親魚が回遊し、同区域周辺で産卵していると推察された。

今後は、産卵後の卵稚仔魚の移動、区域A以外の漁場におけるヒラメの分布及び成熟度等についても把握し、同操業海域の資源量を把握する必要がある。